

イベント情報 取材案内

立命館アジア太平洋大学
2017年12月14日 配信 APUリリース 2017-47

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

社会貢献 x ビジネス 世界を変えるイノベーションを大分から起こせ 初開催！ Hult Prize (ハルト・プライズ) APU学内予選 ビル・クリントン財団(CGI)後援 学生によるビジネスプランコンテスト

2017年12月17日 (日) 13:30 - 17:00 APUキャンパス
テーマ：エネルギーの力を利用して1千万人の生活を変える

「ハルト・プライズ」とは、2009年にハルトインターナショナルビジネススクール(米国)の学生が立上げて始まった世界最大の学生ビジネスコンペティションで、ビル・クリントン財団(CGI)が後援する“学生のノーベル賞”と称される世界的に知られる大会です。2017年6月には、日本支部も設立され、国内でも東京大学、北海道大学、早稲田大学をはじめ、約20大学の参加実績があるなど、その活動が広がり始めています。今年、ハルトプライズ財団より正式に立命館アジア太平洋大学(以下APU)が、大学学内予選の主催者として選ばれ、初めてAPUで学内予選を開催します。大分市、別府市に拠点を置く企業からも支援を受けています。

ハルトプライズ APU学内大会 概要

場 所：立命館アジア太平洋大学 (APU)

時 間：12月17日 (日) 予選 13:30 - 15:00 F棟2階 204教室
決勝 16:00 - 17:00 EⅡ棟2階 多目的ホール
表彰式 19:00 - 20:00 カフェテリア

開催言語：英語

参加者数：APUに在籍する学生 60名 (15チーム・各4名)

参加者出身国：ベトナム、タイ、バングラデシュ、インド、スリランカ、インドネシア、ネパール、モンゴル、マレーシア、シンガポール、中国、日本、フランス、イギリス、アメリカ (15カ国・地域)

スポンサー：STK テクノロジー株式会社 (大分市) , おおいた留学生ビジネスセン

ター Sparkle (別府市) , ASSO(Alliance Social Share Office Beppu) (別府市)
アライアンスタワーZ (別府市)

毎年、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」で掲げられた社会問題に沿って作られたテーマ(難民問題や食糧問題など)に対し、参加者は実現可能かつ、SDGsの課題解決に繋がる事業プランを立案することが求められます。学内予選に勝ち抜いたチームは、2018年3月に開催される地域予選(開催地未定)に進み、6~8月にロンドンで行われる8週間の合宿で世界の地域予選の勝者らとともに、研究や知識を深めます。合宿中に選ばれた6チームが、9月にニューヨークで開催される決勝に進みます。決勝で勝ち抜いた優勝チームには、事業プラン実現のために約1億円(100万米ドル)の賞金が与えられます。参加対象は大学生と大学院生のみ。今春開催された2017年度の大会には、世界100ヶ国以上から約5万人が参加し、5000件のアイデアが集まりました。毎年世界中の大学で予選大会が実施されています。

イベント情報 取材案内

APUでの予選大会を開催する意義

1. 国際経営学部 (APM)とアジア太平洋学部 (APS)両方を巻き込んだ初めてのビジネスコンペティション
 - 経営や起業を学ぶ国際経営学部の学生の学びと、貧困・環境・国際問題等を学ぶアジア太平洋学部の学生の学び、それぞれの課題発見力や解決能力を繋ぎ、より優れたアイデアが生まれると期待。
2. 多国籍な参加学生によるユニークなアイデアの創出が可能
 - APUは、およそ90の国と地域からなる学生集まるグローバル大学です。日々、日常生活や、授業での協働学習を通じて、異なる文化や価値観に触れているAPU生ならではの他校と違う独特で斬新な視点
3. 社会起業への関心や認知度向上につながる
 - 本大会の開催で、APU生へ問題意識を持ち、社会問題を解決するという社会起業を促し、将来的に社会起業家を輩出することに繋がりたい。

主催のAPU学生団体コメント

大分・別府から、学生が社会問題を解決するためのビジネスプランを考えて、世界に向けて発表します。学内で開催することで、参加する学生のみならず、APUの学生全体に社会問題に対する認識を広め、また、日本ではまだ少ないとされている若者の起業の増加に貢献したいと考えています。APU学内でこの大会を開催することで、大分県内を初め、九州全域で、社会起業家として活躍できる人材を育成し、地域活性化に繋がりたいと思います。今回、県内企業4社からご支援いただいております。このようなご縁を大切に、今後も継続的に本大会を開催し、世界の舞台に挑戦していくことを目指しています。

過去の受賞例 一部抜粋

2013年 テーマ：食糧難の解決 “Aspire” マギル大学 (カナダ)

特定の地域では昆虫が貴重な栄養源として食べられている一方、まだ抵抗がある国も多い。この事業プランは、スナックバーの提案など、受け入れられやすいように開発した点が評価された。

2014年 テーマ：健康維持 “Sweet bites” ペンシルバニア大学 (アメリカ)

キシリトールガムという容易な手段で子供の口内ケアを提案した点、現地生産や販売を女性が担うことで女性の社会進出を創造するシステムを構築したことが評価された。

2015年 テーマ：途上国の幼児教育 “Tembo” タンパ大学 (アメリカ)

途上国や貧困地域でも携帯電話の普及率は高い。携帯を使用したアプリやサービスを提供するという事業プラン。これにより、どの家庭でも子供の教育が容易になるというもの。



2017年11月におこなわれた大会に向けたワークショップでの集合写真。多国籍な参加者が集まった。



与えられたケーススタディーに基づいて、事業アイデアを練る練習をしている参加学生たち